

環境レポート (2022年度)



2023年8月1日発行

株式会社ジェイテクト コラム システム
環境マネジメント委員会

1. ジェイテクト コラム システムの環境の取り組み

【活動目的】

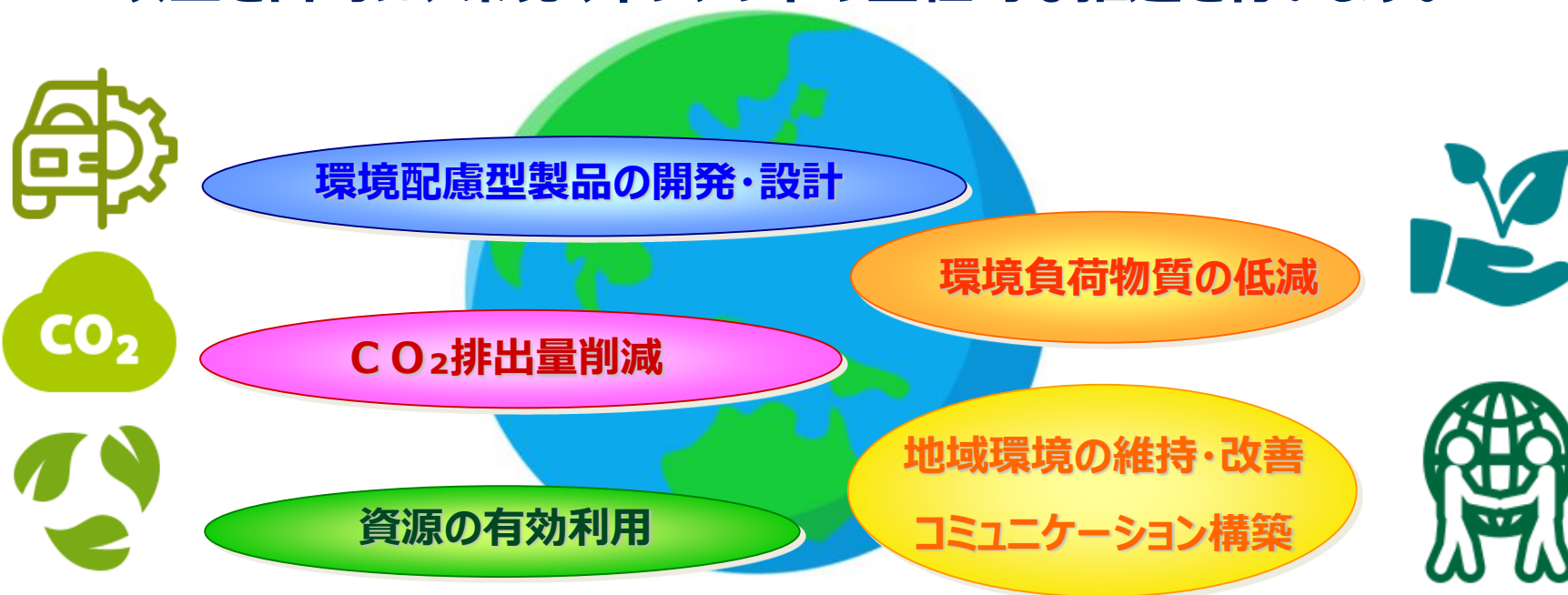
地球温暖化・環境負荷物質問題は全世界的な取り組み

→ 事業者の責務として事業存続上、無視できない問題

環境M委員会では、

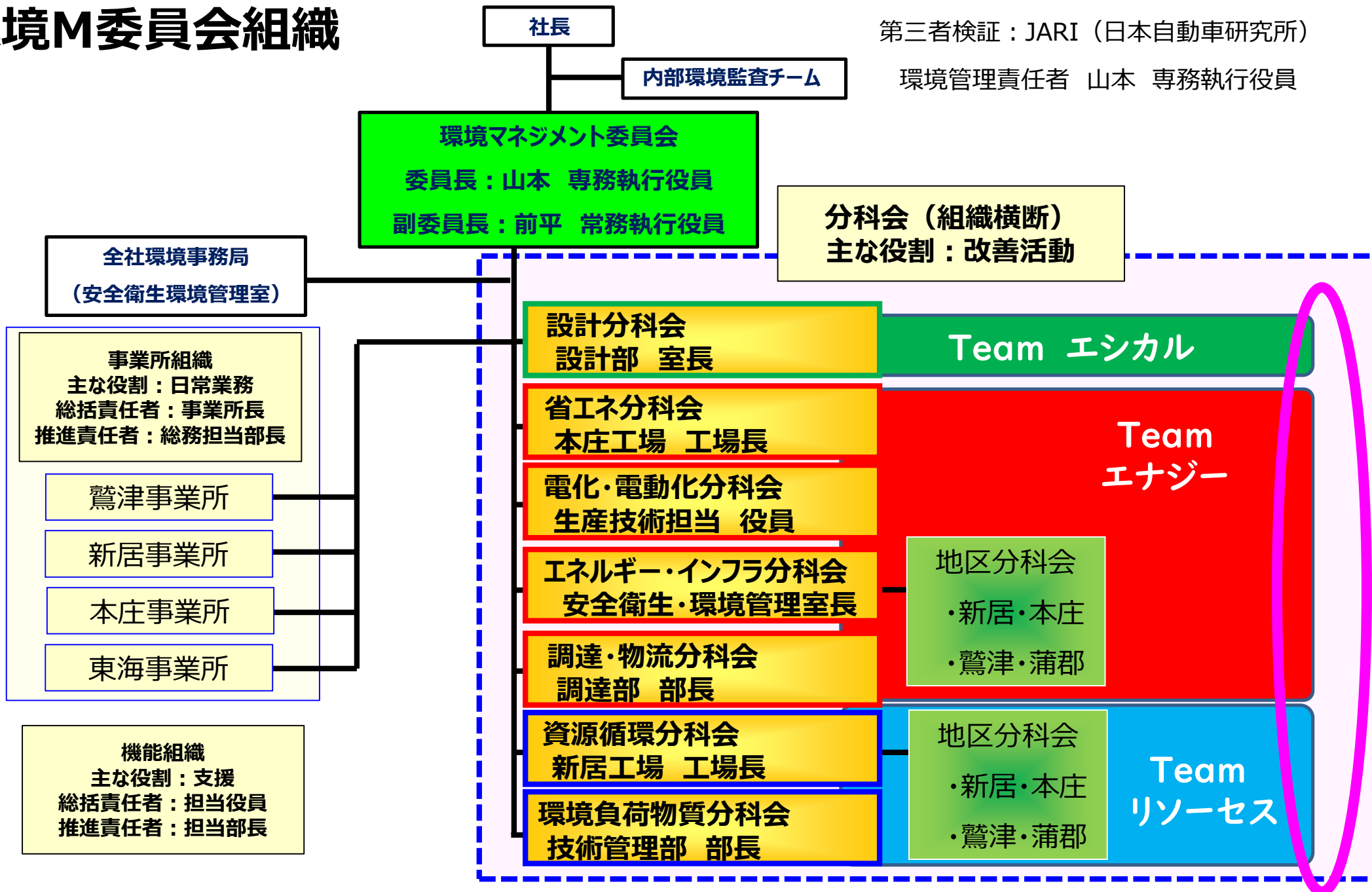
- ① 環境面における当社の社会的責任（CSR）の達成
- ② 環境を切り口とした業務改善を通じ、当社の体質を強化する

以上を目的に、環境マネジメントの全社的な推進を行います。



1. ジェイテクト コラム システムの環境の取り組み

環境M委員会組織



第三者検証：JARI（日本自動車研究所）

環境管理責任者 山本 専務執行役員

2. 環境分科会の役割

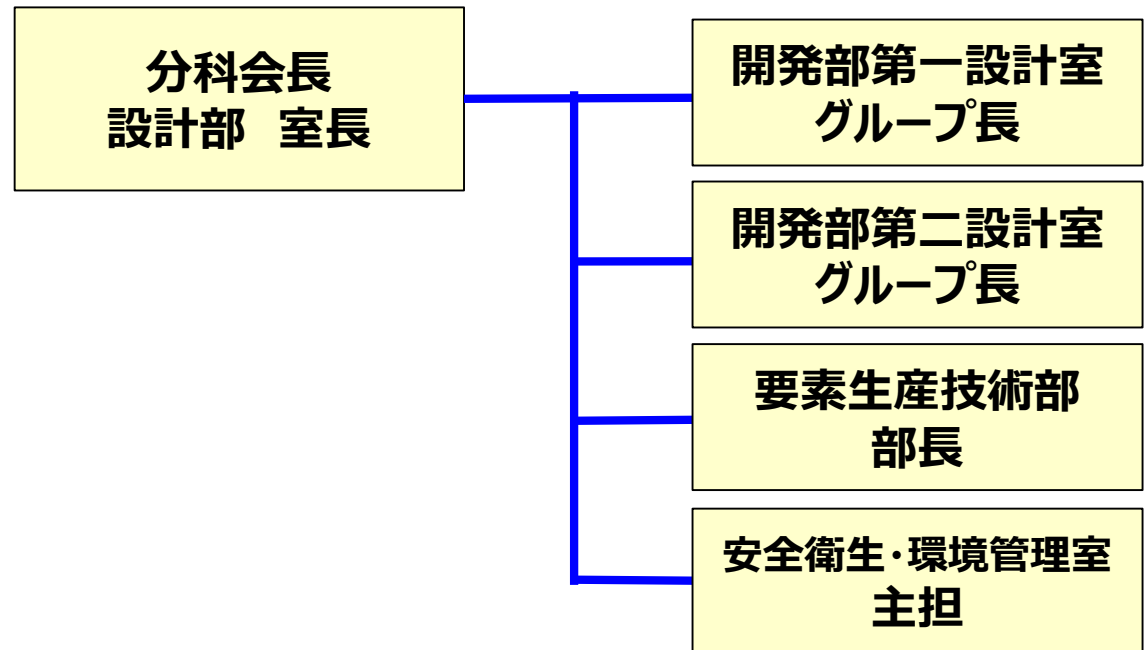
Team エシカル (設計分科会)

(1)活動目的

製品の製造、市場での使用、廃棄に至るすべての段階において、トータルな視点で、環境を重視した開発・設計、生産活動を行う。

(2)活動内容

製品の軽量化・小型化、生産工程の省機・省工程
併せて、製品のマテリアルリサイクルの推進



2. 環境分科会の役割

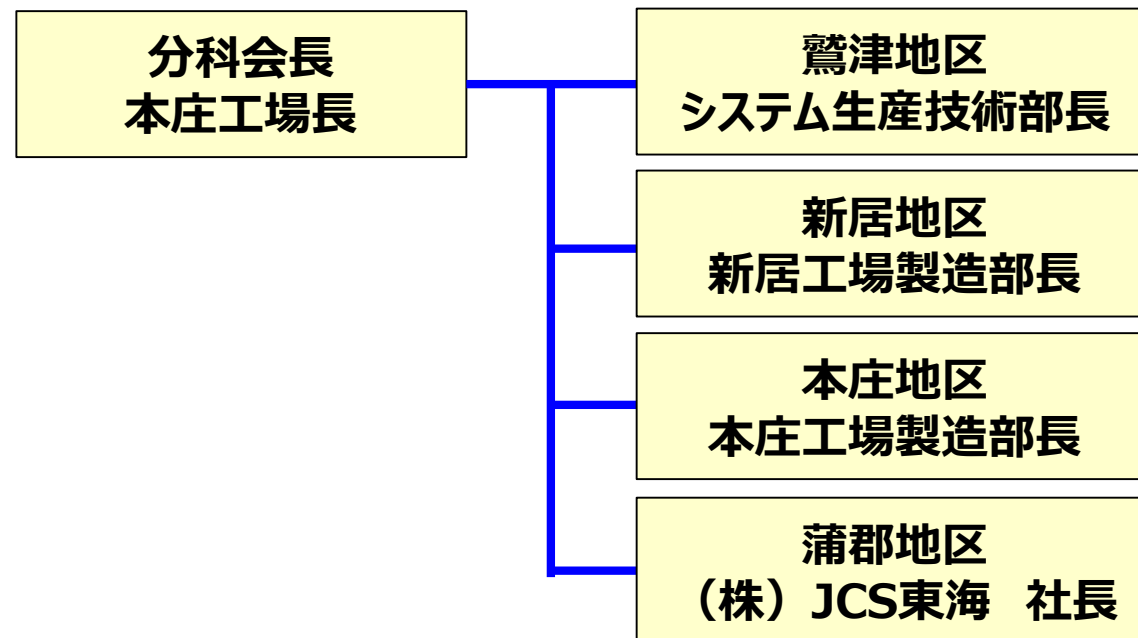
Team エナジー (省エネ分科会)

(1)活動目的

製品の開発から生産及び納入に至る、当社の事業活動のあらゆる面において、エネルギー使用の低減に努め、低炭素社会の構築に貢献する

(2)活動内容

エネルギーの利用効率化（ムダの排除、可動率・直行率向上、やりじまい等）
生産設備の小型化、省エネ化など



2. 環境分科会の役割

Team エナジー (電化・電動化分科会)

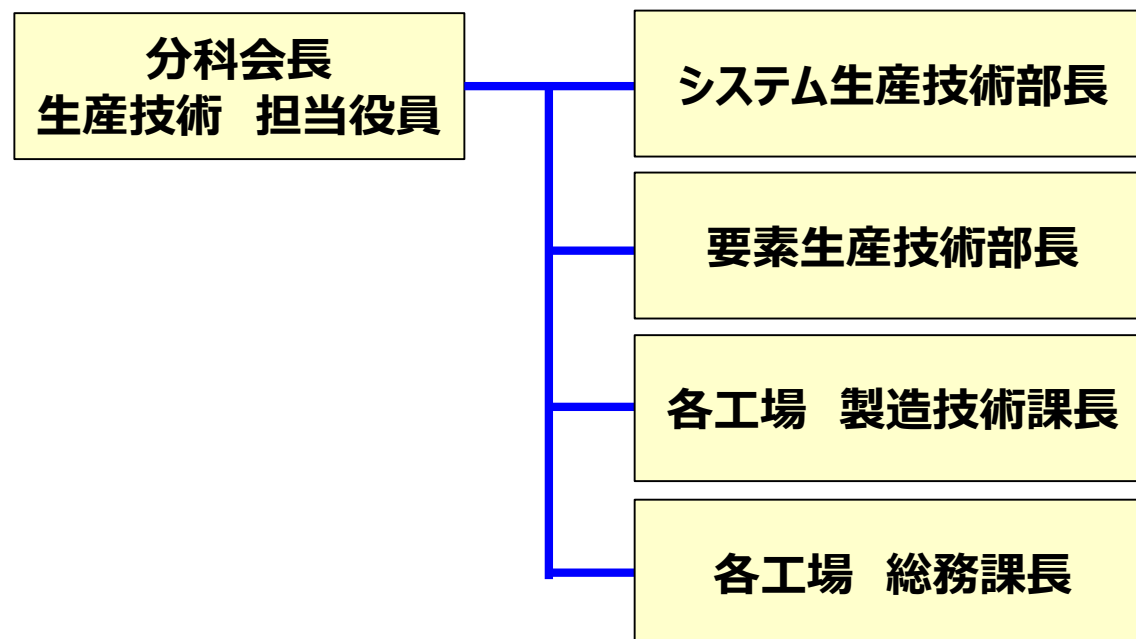
(1)活動目的

カーボンニュートラルの達成へ向けて、温室効果ガスの排出量の最小化を目指す

(2)活動内容

電化：今ある燃料ガスの使用機器を将来電化する

電動化：油圧機器を電動化（サーボ化）を検討し導入していく



2. 環境分科会の役割

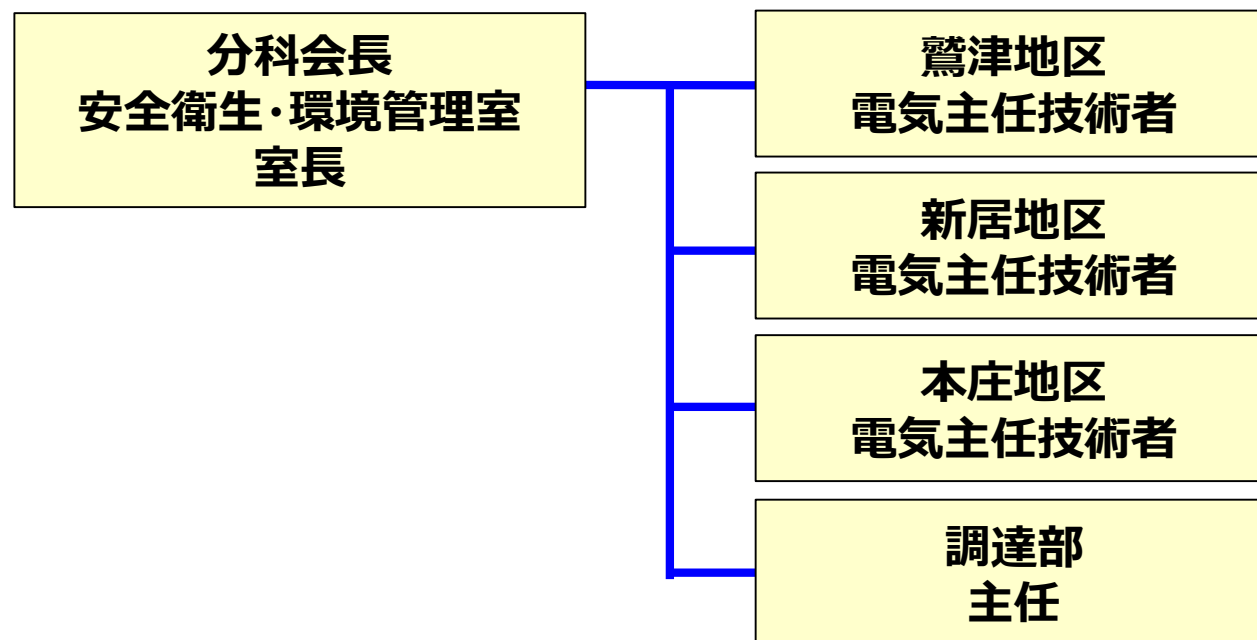
Team エナジー (エネルギー・インフラ分科会)

(1)活動目的

カーボンニュートラルの達成

(2)活動内容

電源の脱炭素化（電力会社の選択）、非化石エネルギー利用（太陽光発電、風力発電など）、グリーンエネルギー活用（排出係数ゼロ電力など）を検討し最適導入を図る



2. 環境分科会の役割

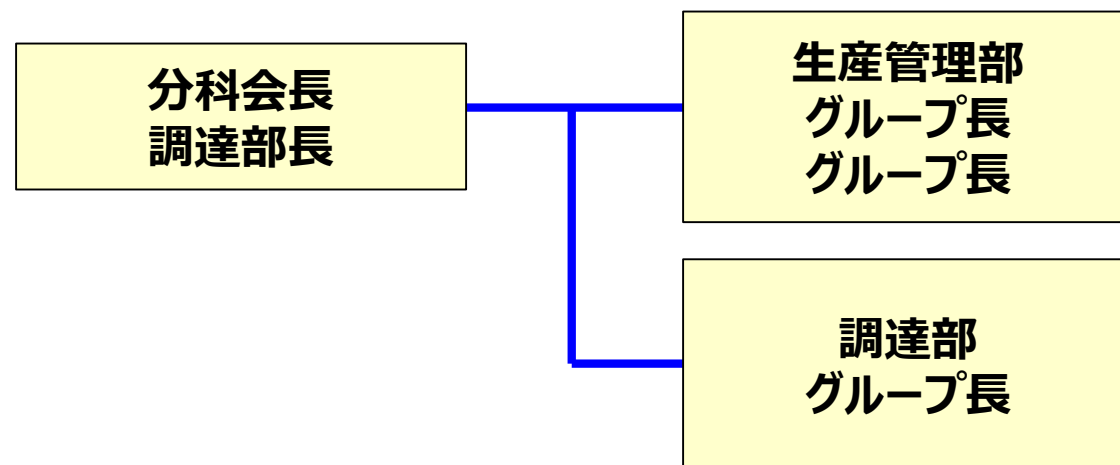
Team エナジー (調達・物流分科会)

(1)活動目的

サプライチェーンを通じて、環境負荷の少ない資材、一般購入物品の優先的調達・物流を行い、持続可能な社会の構築に貢献する。

(2)活動内容

調達合理化（購入材料、部品費低減）、仕入先品質向上（Q-UP）、グリーン調達
輸送効率向上、余剰品削減など



2. 環境分科会の役割

Team リソース (資源循環分科会)

(1)活動目的

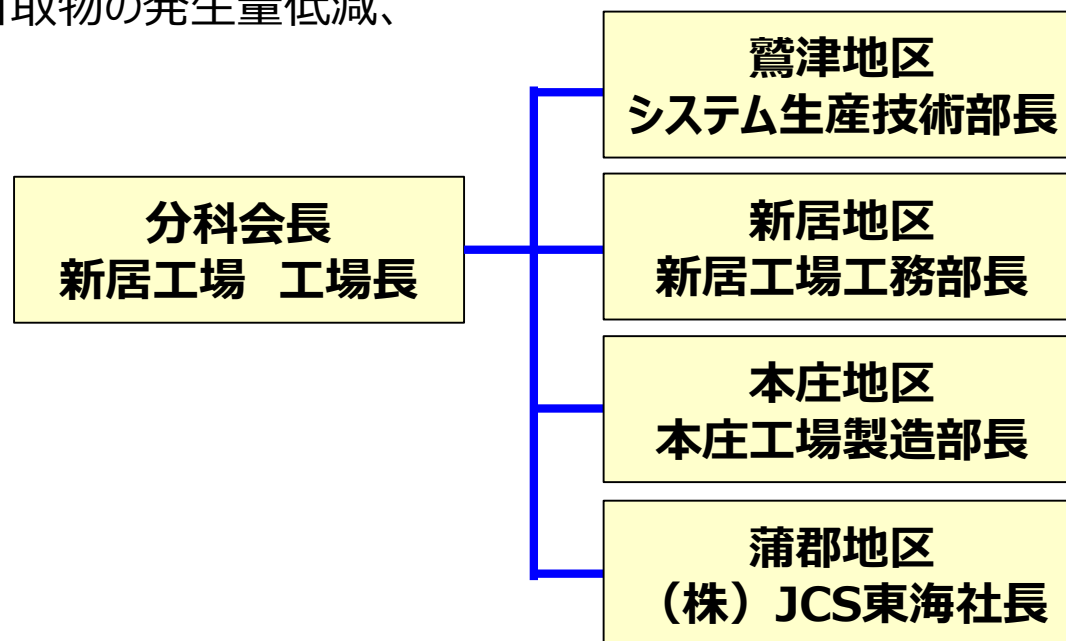
製品の開発から生産及び納入に至る、当社国内グループの事業活動のあらゆる面において、
廃棄物の削減に努め、循環型社会の構築に貢献する

(2)活動内容

ゼロエミッション推進、3 R 推進

産業廃棄物排出量・水の使用量の低減、有価引取物の発生量低減、
工程内不良削減、歩留まり向上、荷姿改善など

資源循環



2. 環境分科会の役割

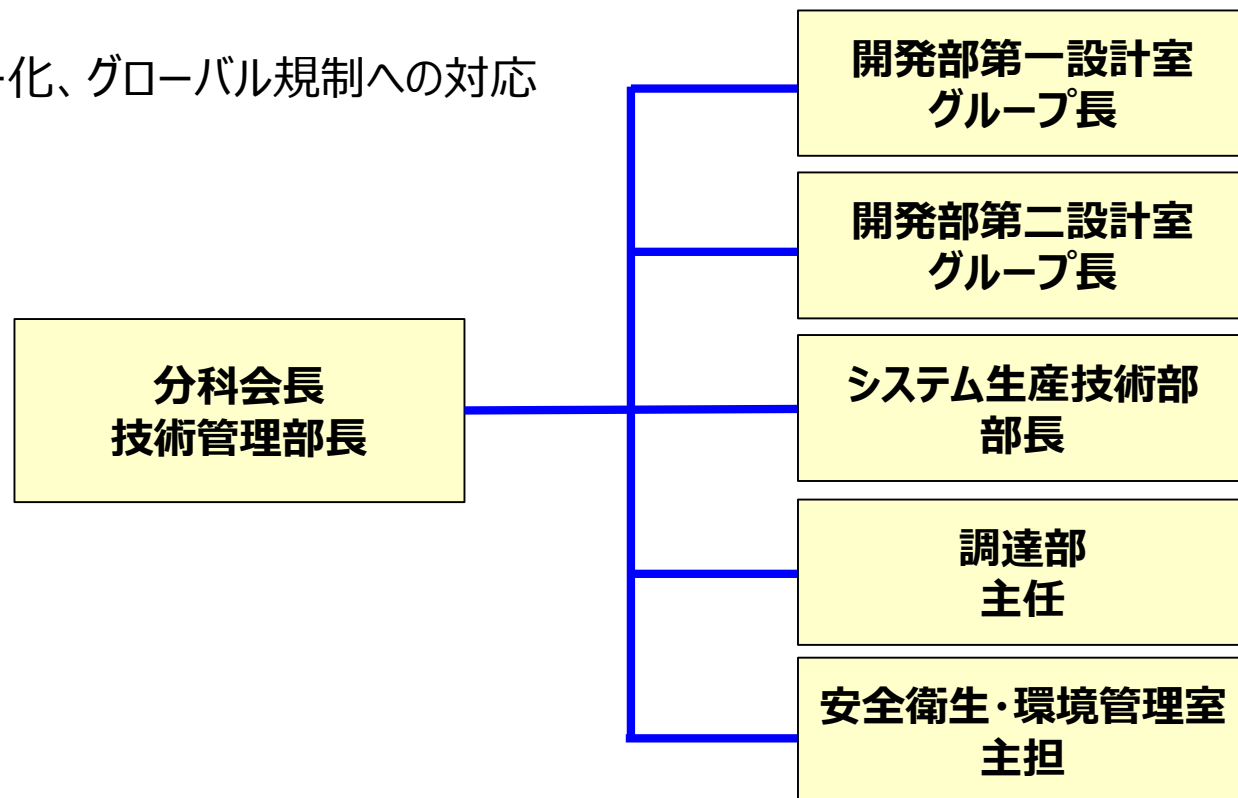
Team リソース (環境負荷物質分科会)

(1)活動目的

生産活動における環境負荷物質の低減及び製品含有化学物質の管理を充実させることを通じて、当社の環境保全体制を構築する。

(2)活動内容

環境負荷物質の使用量低減及びフリー化、グローバル規制への対応



中期経営方針（環境）

環境スローガン 「All for One Earth」 かけがえのない地球のために

1. 製品・技術開発

環境配慮型製品・工法の開発設計

2. 脱炭素社会の構築

材料、部品調達から設計、製造、廃棄に至るライフサイクルでのCO2排出の削減

3. 循環型社会の構築

生産段階での排出物の極小化と再資源の拡大

4. 環境保全体制の構築

化学物質管理の徹底、環境負荷物質の低減

地域環境の維持・改善とコミュニケーション構築

5. 環境マネジメント

環境汚染・事故の未然防止

社会的課題や利害関係者の期待に沿ったマネジメントの確立

地球環境保全を積極的に進められる企業風土と人づくり

グローバルで環境活動の拡大

環境中長期目標 (環境事故・環境苦情)

環境事故・環境苦情 目標と実績

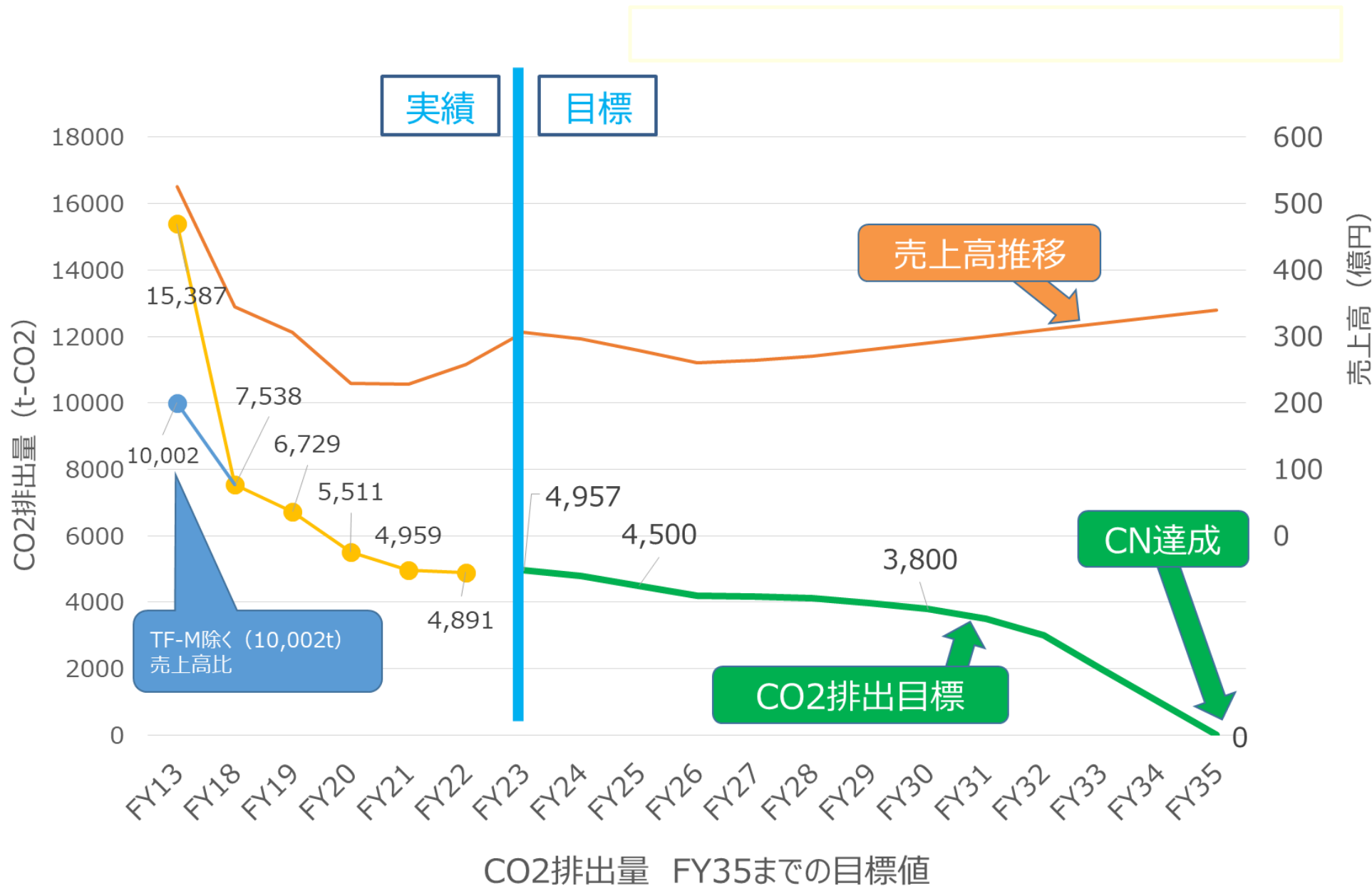


環境事故・環境苦情の目標及び実績はゼロ

4. 環境KPI (実績と目標)

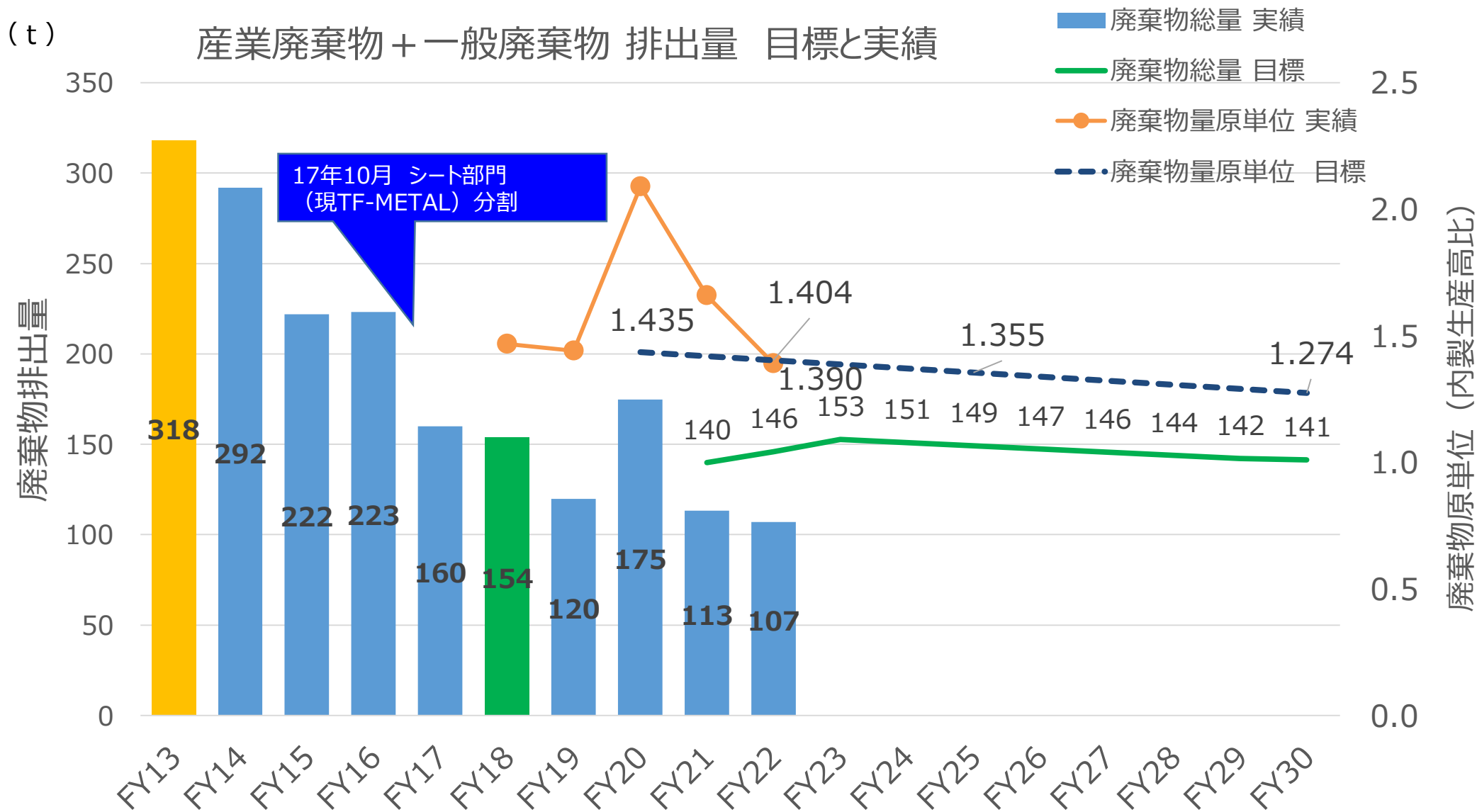
環境中長期目標 (CO2排出量 SCOPE1,2)

電力排出係数は実排出係数を使用
 FY18...0.472 FY19...0.452 FY20...0.426
 FY21...0.379 FY22...0.388 FY23~...0.390



目標設定について：FY18をBMとして設定

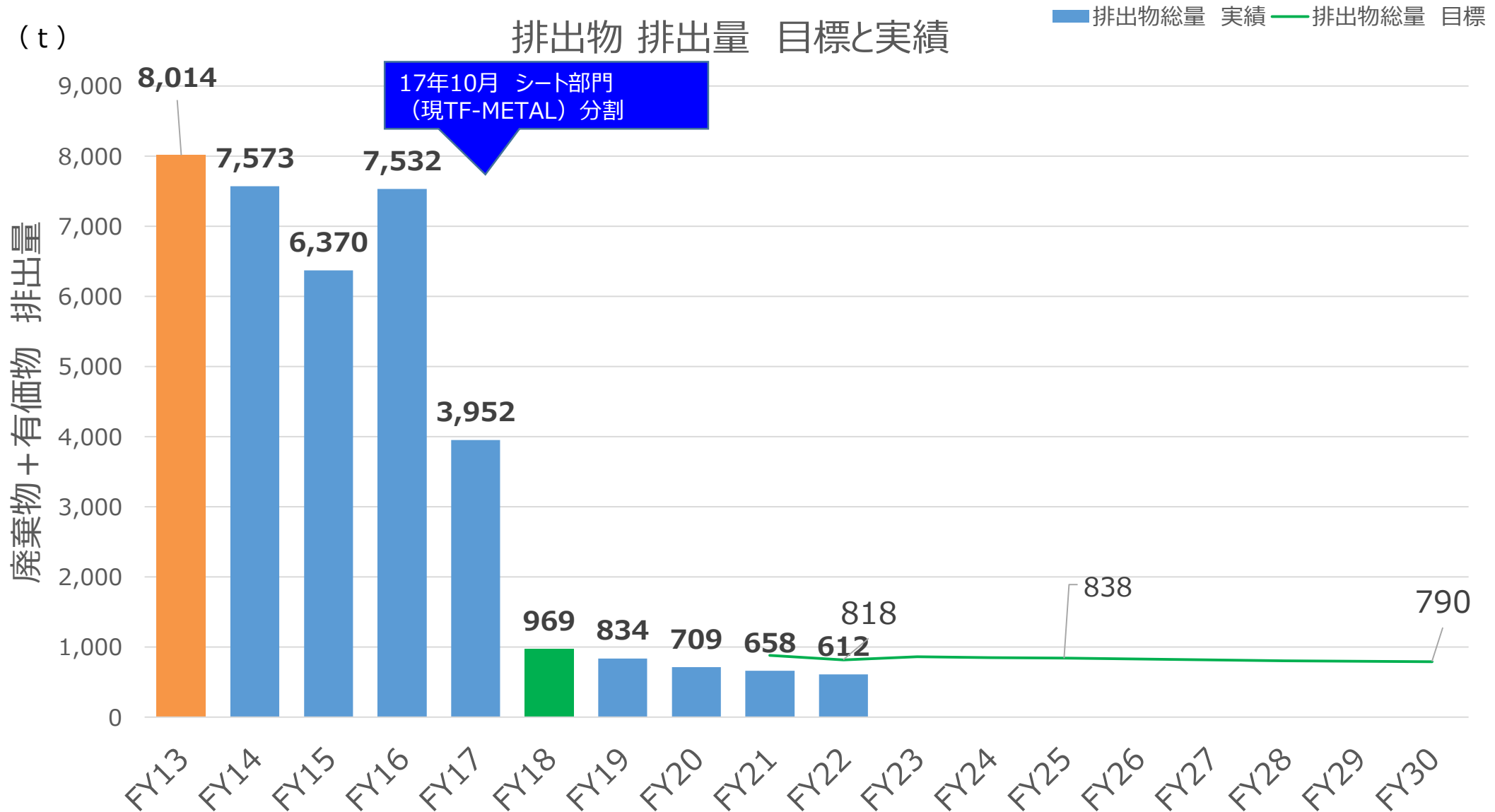
環境中長期目標 (廃棄物)



目標設定について：FY18をBMとして設定

4. 環境KPI (実績と目標)

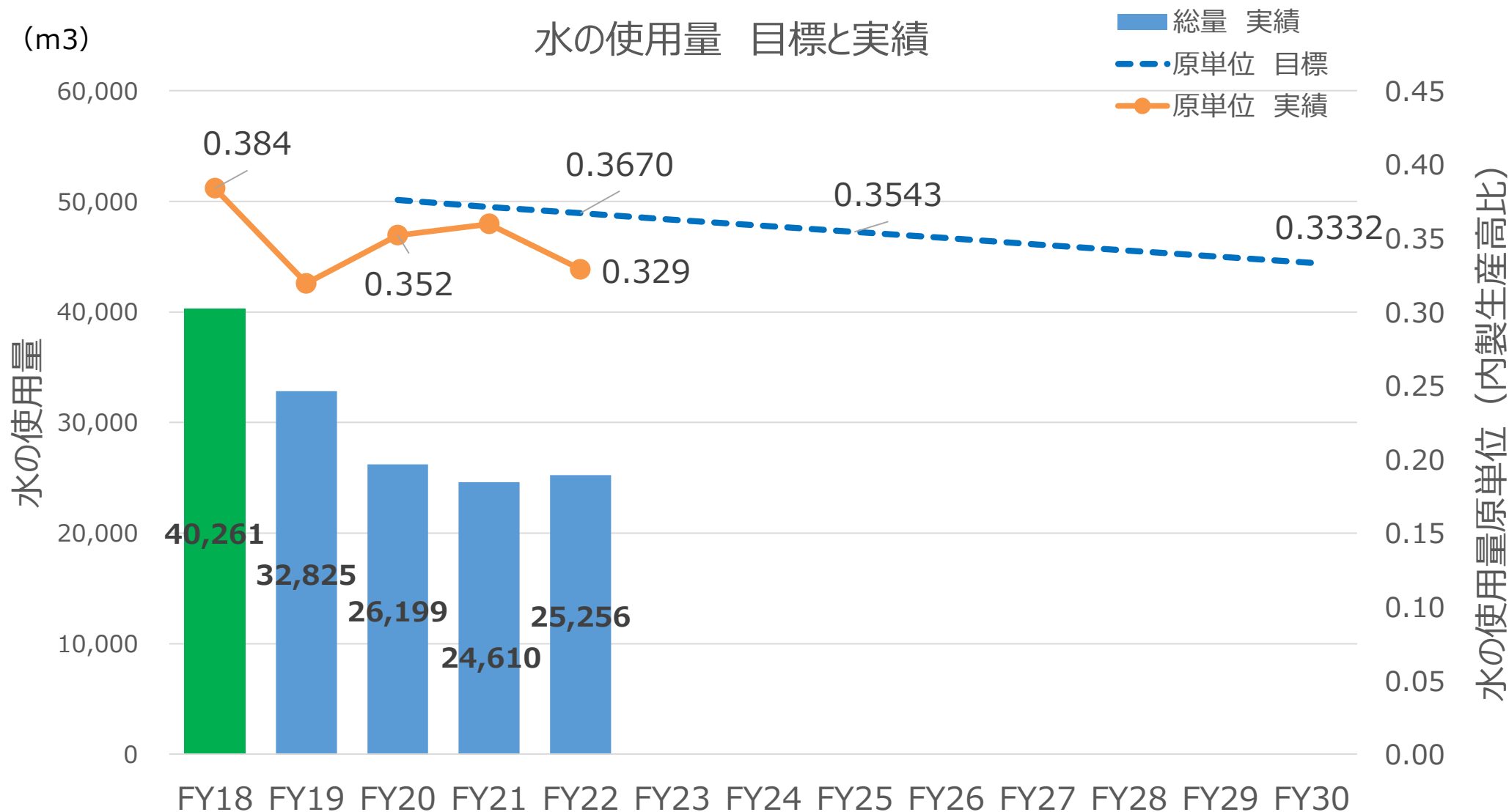
環境中長期目標 (排出物) 廃棄物 + 有価物



目標設定について：FY18をBMとして設定

4. 環境KPI（実績と目標）

環境中長期目標（水の使用量）

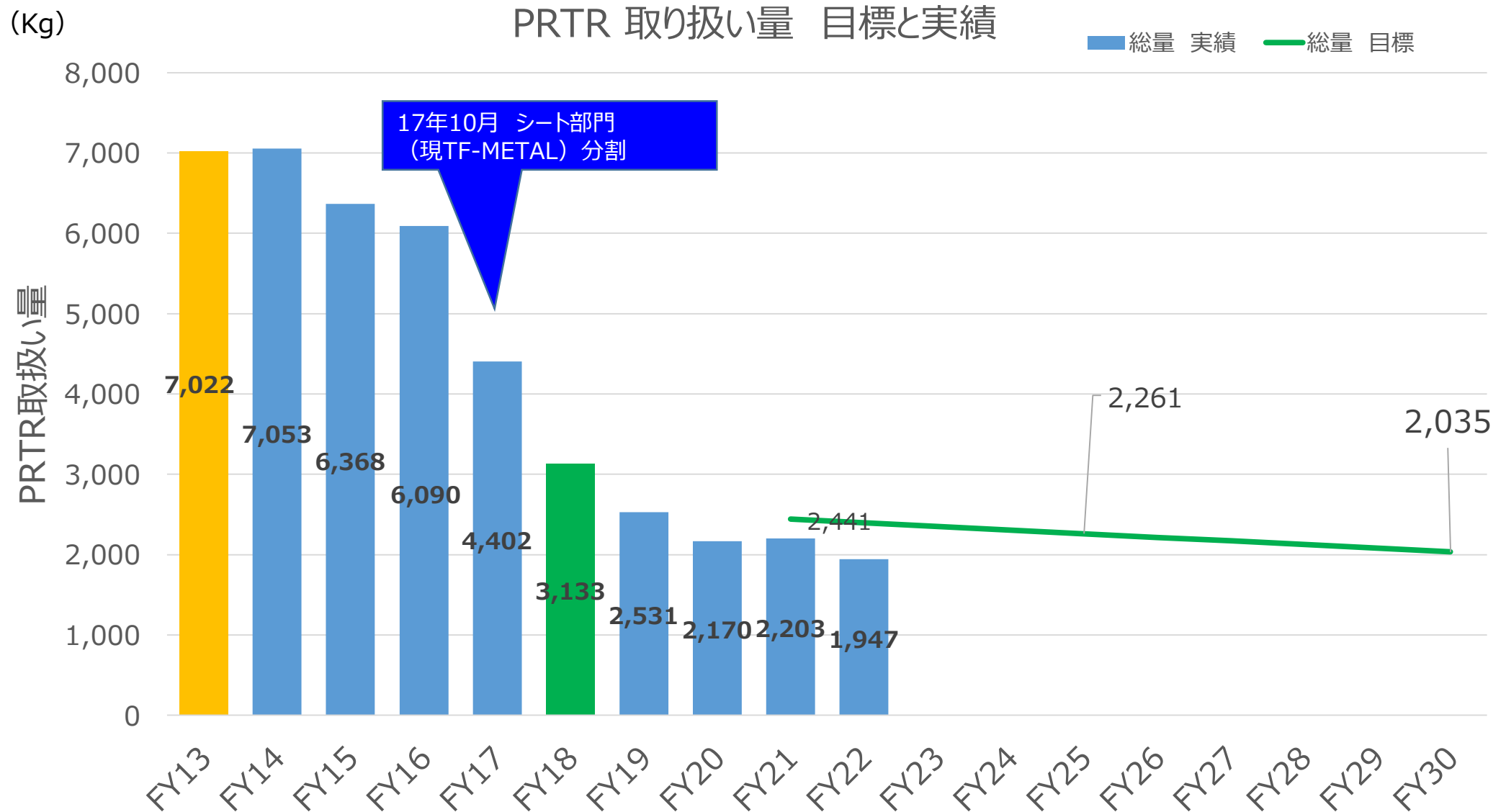


4. 環境KPI (実績と目標)

環境中長期目標 (PRTR)

目標設定について：FY18をBMとして設定

PRTR制度とは、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。



5. 地域社会へ貢献

「古見川きれい作戦」に参加しました！

2022年10月22日(土)に、古見川及び浜名湖の環境美化と環境美化意識の向上を目的とした、古見川河川敷の草刈り／ごみ拾いが行われました。

当社は秋山社長をはじめ14名が参加、地元の河川の美化活動を通じて、社会貢献活動の重要性を再認識致しました。

これからもCSR方針に則り、積極的な地域貢献活動を推進してまいります。

